

能登・真浦町プロジェクト

概要

「これからの『真浦の暮らし』はどうあってほしいか」
能登半島の復興は、従来の災害復興の形を超え、過疎やまちづくり・インフラの使えなくなった生活環境などの課題解決をも視野に入れなくてはならない難しい状況にあります。

—美しくも厳しい自然との生活風景、暮らしを我々はどう守るべきなのか、継承できるのか。限られた時間、この集落を訪れる自分たちができることは何なのか。—

美大の建築学科が取組む復興のあり方を考え、手足を動かし、現地の人と交流し時間を重ねながら、何かを形にしていきたい。2024年度は定期的な訪問と勉強会を実施。次年度以降の具体的な活動について検討を進め、2026年4月からは本学建築学科の國廣スタジオ+持田スタジオの大学院プログラムとして常設予定です。

基本情報

担当教員学科 建築学科	時数十名の方々が関わっている
担当教員氏名 國廣純子、持田正憲	東京科学大学 坂村圭研究室 16名 真浦町集落の方々 世帯数 26
プロジェクト実施期間 2025年度～	参加学生の学年 2年生～3年生、大学院生 (学年の制限無し)
プロジェクトの実施拠点 現代集落 (〒927-1326 石川県珠洲市 真浦町ル 12)	主な連携先 ・現代集落のコアメンバーの方々 ・こみんぐる代表 林俊吾さん ・こみんぐるスタッフ 荒井智恵子さん ・武蔵野美術大学建築学科 OB 会 日月会会長 小津誠一さん ・アオイランドスケープデザイン 吉田葵さん ・アーキヒューマー代表 石丸晋平さん
参加学生の学科 建築学科、基礎デザイン学科 *学科の制限なし	*今後連携や交流を検討 東京科学大学 坂村圭研究室 真浦町集落の方々
参加学生の人数 2024年度 延べ 20名 (1回の現地催 行人数 5名程度)	
連携先など関係者の人数 現代集落のコアメンバーの方々 5名 (オンラインコミュニティを運営し、常	

プロジェクト全体の関係図

